

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月27日

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・経路名・設備名・運行(航)区間・整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、飛鳥航路に係る確保維持事業において飛鳥航路構造改善補助(国庫後援の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】		A・B・C 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ橋	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、立待線、河和田線	【前回の評価内容】 (評価できる取組み) ①利用者がわかりやすいパターンダイヤに変更したことについて評価します。 ②中心部にてまでの速達便を設け、利便性を向上させたことについて評価します。 ③新しいダイヤ変更による混雑を最小限に抑えるため、市広域と合わせて乗換え早見表を掲載した携帯型時刻表を全世帯に配布し、市内の主要施設(商業施設・公民館・温浴施設・駅等)にもあらかじめ設置した点、更に市内の高齢者サロンへの出前講座を継続的に実施し、新ダイヤの定着に向けた取組について評価します。	令和5年度事業については、概ね地域公共交通計画に基づいて事業を進めることが出来た。 令和4年4月に実施したダイヤ改正の内容を定着することを第一としつつ、新たな利用者獲得に向けて幅広い年代層に向けた事業を行ってきたところである。	○実績 [R3] R2.10~R3.9 目標 230,900人 実績 107,021人 R4.4.1~ダイヤ改正実施 [R4] R4.4~R5.3(※R.12に地域公共交通計画策定、R4.4.1にダイヤ改正を実施したことから) 目標 149,200人 実績 113,806人 [R6] R4.10~R6.9 目標 154,400人 実績 124,279人 [R7] R5.10~R6.9 目標 159,600人 実績 人 [R7] R6.10~R7.9 目標 164,800人 実績 人 [R8] R7.10~R8.9 目標 170,000人 実績 人	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
越前観光線	つつじバス 循環線、鯖江南・新横江線、豊線	(期待する取組み) ④地域公共交通計画の各種取組事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理し、計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を通じ、必要に応じ見直しを検討するなど、目標達成に向け取組を進められることを期待します。 ⑤循環線ダイヤは支線との接続を重視していること、各路線の重複しているポイントを含め広く利用者に知ってもらうことも重要であるため、この点を踏まえた今後の周知活動に強く期待します。 ⑥市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統(特に鯖浦線、福浦線)について、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	車両の更新については、4月に新しいデザインの中型バス1台の更新を図り、県内の私立大学生と協働で作成したデザインであったことから、幅広いPRに繋がるとともに、乗り心地向上による利用者の快適性の向上も図った。 また、新しいデザインの小型バス5台についても来年度4月の更新を目指し、入札業務の実施を行い、3月納車で準備を進めている段階である。小型バスについては、利用者の多い循環線のバス車両として使われるため、多くの利用者に向け、快適性が向上するものと見込んでいる。 新たな取り組みとしては、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス停標識看板(丸板)のデザイン刷新を行うに当たり、丸板着板の新デザイン作成の実施を行い、12月にデザインの審査選考会を実施し、最終案を決定する予定である。バス停丸板着板の新デザインについては、小型バス5台の新しいデザインの車両更新と合わせて実施を行い、話題性の確保およびコミュニティバスへの愛着醸成を図るきっかけとする。	※一便あたりの利用者数推移 ○〇線 [R3]~[R4]~[R5]~[R6]~[R7]~[R8] 循環線 [5.90]~[6.94]~[8.11]~[]~[]~[] 鯖江南・新横江線 [1.26]~[1.55]~[1.39]~[]~[]~[] 神明線 [4.13]~[3.24]~[3.78]~[]~[]~[] 片上・中河線 [3.57]~[2.20]~[2.71]~[]~[]~[] 立待線 [4.12]~[3.70]~[4.68]~[]~[]~[] 吉川線 [5.02]~[4.02]~[4.70]~[]~[]~[] 豊線 [4.45]~[5.00]~[6.17]~[]~[]~[] 北中山・中河線 [1.18]~[1.39]~[1.49]~[]~[]~[] 河和田線 [5.21]~[4.24]~[4.55]~[]~[]~[] 全路線 [4.38]~[4.32]~[5.01]~[]~[]~[]	利用者数については、目標に対しては未達であるが、令和4年4月にダイヤ改正・路線改編を行ってから増加傾向であり、利用したことがない層への利用促進PR及び使い方の説明を行っていくことで、更なる利用者の増加が見込まれると想定しており、最終年度までに達成が出来る見込みである。 今後の事業内容については、R6.3月の北陸新幹線敦賀開業に伴い、JR北陸本線がJR西日本からJRびらんふいに経営が移管されるため、電車との乗継ぎについても確認を行い、必要に応じて各地区路線の通勤・通学(朝夕)の時間帯の調整を行い、利用者の利便性を損なわないようにする。
鯖江交通線	つつじバス 吉川線、立待線	【事業の実施内容】 ④事業の実施スケジュールに沿って、事業を進めている。令和5年度については、SNS(InstagramおよびX(旧Twitter))を活用したコミュニティバス情報発信の開始、車両デザインのマイナーチェンジを含めて中型バス1台の車両の更新を行い、つつじバスへの愛着醸成を図った。令和6年度に向けては、中型バス同様、車両デザイン更新を含めた小型バス5台の車両更新を実施するとともに、新たな取り組みとしては、市内温浴施設との提携による新たな利用者獲得、北陸新幹線敦賀開業に伴う並行在来線鉄道ダイヤの変更によるバスダイヤの一部調整、地区路線一部エリアにおけるフリー降車制の実証実験の実施による利用者からのフリー降車制に対する意見収集、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス停丸板着板デザインの新しデザインを作成し、市内にある約290か所の全バス停着板の変更を行う。これらの事業実施を通じ、利用者利便性の向上および更なる愛着醸成を図る予定である。 ⑤循環線の利用者が毎月増加傾向であることから、支線と循環線の接続については既存利用者には周知ができたものと考えている。令和5年度についても昨年同様、高齢者サロンにむき、その地区・町内におけるバスの効率的な利用方法について説明を行った。ただし、バスに乗ることがない層に対して、各路線が重複しているポイントや支線から循環線への接続モジュールの周知が広く出ていないことから、地区毎(各町内)への班回物の配布についても実施していくことを検討している。	B コミュニティバスに関する情報発信の面では今までポータルサイトのみでコミュニティバスに関する情報発信を行ってきたが、それは継続しつつも、新たなSNS(InstagramおよびX(旧Twitter))を活用し、情報発信を開始した。高齢者の利用がメインのコミュニティバスであるが、若年層にも興味を持ってもらうという取組みであり、市内の高等専門学校に通う号車の車内アカウントのQRコードの設置などを行い、周知を行った。 一度バスに乗ってもらうためのきっかけ作り施策としては、市内イベントで公共交通ブースを出展した際にコミュニティバスの塗り絵を親子連れに行ってもらい、夏休み期間にバス車内に掲示することで、親子での乗車や祖父母と交えての乗車を行うきっかけ作りを行った。	○〇線 [R3]~[R4]~[R5]~[R6]~[R7]~[R8] 循環線 [5.90]~[6.94]~[8.11]~[]~[]~[] 鯖江南・新横江線 [1.26]~[1.55]~[1.39]~[]~[]~[] 神明線 [4.13]~[3.24]~[3.78]~[]~[]~[] 片上・中河線 [3.57]~[2.20]~[2.71]~[]~[]~[] 立待線 [4.12]~[3.70]~[4.68]~[]~[]~[] 吉川線 [5.02]~[4.02]~[4.70]~[]~[]~[] 豊線 [4.45]~[5.00]~[6.17]~[]~[]~[] 北中山・中河線 [1.18]~[1.39]~[1.49]~[]~[]~[] 河和田線 [5.21]~[4.24]~[4.55]~[]~[]~[] 全路線 [4.38]~[4.32]~[5.01]~[]~[]~[]	あわせて、新しいデザインの小型バス車両5台の更新および市内にある約290か所のバス停丸板着板のデザイン更新を図り話題性の確保、市内温浴施設との提携を図り相互の利用者数増加策、地区路線の一部フリー降車制を実証的に実施することによる利用者からの意見の吸い上げといった新たな施策を実施することで新規ユーザーの取り込みを図る。また、高齢者サロンへの出前講座の継続実施、令和5年度より開始したSNS(Instagram・X(旧Twitter))を活用したバス運行情報の発信を継続することで、幅広い年齢層に向けたアプローチを引き続き実施する。
鯖江高速観光線	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、北中山・中河線、河和田線	⑥県主導の「生産性向上に向けたWG」に参加。各系統の実状を把握するとともに路線沿線市町の利用者促進策について共有を行った。コミュニティバスのダイヤ改正を行う際、可能な限り乗継ぎができるようにダイヤの調整の実施を行った。あわせて、地域間幹線系統を運行している事業者が実施しているお得な制度について、市のHPへの掲載、市役所内にチラシの設置を行うことで利用者への周知を図った。	ただし、割引料金制度の拡充事業については、令和5年度より1日フリー乗車券の導入の検討を行う予定であったが実施が出来なかった。理由としては、1日フリー乗車券以外の割引制度(乗継券等)が既に充実していることから、1日フリー乗車券の導入は限定的な効果になってしまおうのではないかと検討があったためである。割引料金制度の拡充策については、1日フリー乗車券という形ではなく、市内にある温浴施設との提携により相互の利用者増加に向けた取組について、令和5年度中に市内温浴施設と協議の実施、令和6年度から提携企画をスタート出来るように準備を行っている。	○分析 各地区路線から市内循環線への乗継ぎ利便性の向上により、循環線の利用者数が顕著に伸びている。 また、各地区路線においても、1年半新ダイヤでの運行を行うことで利用者が新ダイヤに慣れかけていることから各路線回復傾向である。 特に豊線においては、市内にある高等専門学校へ通う学生の利用者が行きだけでなく帰りの便も鉄道とのダイヤが接続されているため、利用者が多く、R5年度の1便あたりの利用者数は大きく増加となっている。全路線での1便あたりの利用者数も5.0人を超える形となった。	各地区路線と循環線の高い接続性が最も利用者にとってほしいポイントであるため、各地区路線が意識しているポイントを各地区向けに班回物を行うとして、利用者への周知に力を入れている。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月27日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きくかけ離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R8年度の利用者目標を170,000人で再設定を行った。</p> <p>今後の事業内容については、新ダイヤでの運行を約2年間終え、ダイヤの定着が図られたことになることから、今後については利用者の利便性向上を目指す施策を行う。R6年春には北陸新幹線敦賀開業に伴い、JR鯖江駅は並行在来線に移るため、電車との乗継ぎ(主に朝夕の通勤および通学者メインの便)についても必要に応じて可能な限りスムーズに乗継ぎが行えるように調整を行う。</p> <p>あわせて、新しいデザインのバス車両5台の更新に伴う話題性の確保、市内温浴施設との提携企画、地区路線の一部エリアにてフリー降車制を実証的に行うこと、バス停丸看板のデザイン一新など、新たな施策を実施することで愛着を持ってもらえるバスにすること、また日常の移動手段として便利に利用されるコミュニティバスになるよう努める。</p> <p>またつじバス利用者へのアンケート調査についても新ダイヤに対する利用者の生の意見を聞き出し、更なる利便性向上出来る点がないかを探ることを目的に実施することを検討する。それらから得た意見等について対応を検討できないかを活性化協議会内で協議を行う。</p>